令和６年度第２回読書活動推進委員会 議事録

日時 ： 令和６年 11 月 15 日（金）
会場 ： 県立図書館研修ホール

協議１ 「宮崎県生涯読書活動推進計画」における管理指標について

グループ名	意見
家庭	① **管理指標について** ・ 改定案の「家庭では」だと、誰を指すのか分からない ・ 質問の表現はこのままで、回答項目を具体的な家庭の姿にしてはどうか。 ＊「子どもが読書をしている」「親が読書をしている」「読み聞かせをしている」「読書や本を話題にしたりすることはない」など。 ② **漫画を追加することについて** ・ 読書の入り口を考え、注釈を加えれば含めてもよいのではないか。 ・ 漫画の境界線が難しい。絵本は良いのに漫画は NG な理由も分からない。
学校	① **管理指標について** ・ そもそも読書は「一斉」にする必要はないので、本来の読書の意味を問い直すようにした方がよいのではないか。 ・ 時間や回数を聞くのではなく、子ども達の能動的な読書を問う指標をつくるべきではないか。例えば 「子どもが読書に親しむような取り組みをしていますか」→「どんな活動をしていますか。」という問い。 ・ 環境がまだ整っていないので、「本がすぐ手に取れる環境になっていますか」など。 ・ 入れ替えをしていない、置きっぱなしにしている状況も散見される。 ② **漫画について** ・ 子ども達が「読書って何だろう」と迷わないためにも、注釈はあった方がよい
地域	① **管理指標について** ・ 文言については改定案のままでよいと思う。 ・ 改定案のように多様な読書で隙間時間も含めるのであれば、読

	書時間を問う回答の選択肢は５分・10分など細かくしてもよいのではないか。 ・　「あなたは本を読みますか」→「読むという人はどのくらい読みますか」という順に質問すると良いのではないか。 ②　**漫画について** ・　一般の県民は「電子書籍＝漫画を含む」と思う人が多いと思う。CM でも漫画を電子書籍言っている。 ・　漫画の考え方については、県が判断しても良いと思う。なかなか答えはでない。 ・　アンケートは文字数は少ない方が良いので（漫画を含む）というようにすれば良いと思う。
読書バリアフリー	①　**管理指標について** ・　読書バリアフリーに関する研修の受講対象を公立図書館だけでなく、もっと広げて良いのではないか。 ・　今の指標はバリアフリー環境整備につながる指標の１つ側面でしかない。他にも「アクセシブルな書籍がどのくらいあるのか」「それを利用している人がどのくらいいるのか」などをあってよいのでは。 ・　前段階として、読書バリアフリーの意味を考えると、いろんな読書の形がどれだけ浸透しているか、知られているのか、というところからスタートするべきではないか。 ・　県内で開催された全ての研修会や体験会などの回数や参加者などを指標に加えても良いのではないか ・　この１項目では、議論の深掘りが難しい。国では読書バリアフリーの協議会が開かれている。 県もそれに追いつけるように、もっと読書バリアフリーに取り組むべきではないか。

協議2 電子書籍の活用について

グループ名	意見
家庭	○　活用の前に認知が足りていない。Yoututbe などを活用して宣伝するとよいのではないか。 ○　米良さんなど著名人を活用するのもいいが、○○大会でチラシを配布する方がよいと思う。
学校	○　周知不足であるため、CM や新聞とタイアップして、周知広報を行うと良い。 ○　図書館 HP も分かりづらく、丁寧さがほしい。

	○　登録していないところには、QR コードを活用するなど手軽にできるようするなど、誰でもできるようなシステムにしてほしい。 ○　軌道にのるまでは、生涯学習課や県立図書館が、登録を希望するところに派遣し、丁寧に説明できるとよい。 ○　また、登録については市町村図書館でも登録ができるようにしたり、大学と県立図書館が連携して、入学時のオリエンテーションで説明したり、司書の方へ研修を行うことで大学内での周知を図ることもできるのではないか。 ○　図書館の見学を利用して登録するしかけもあってよいのでは。
地域	○　PR が必要だと考える。 ・　知事が使っている姿を県政番組で流したり、ラジオや SNS 等も活用して広く広報する。回覧版や公民館の講座など。 ・　子ども達を活用することも良い。子ども達が福祉施設へ行き、電子書籍を教える活動や、電子書籍を活用した読み聞かせをするところをメディアに取り上げてもらう。 ・　公共図書館のない中山間地域では、電子書籍を使う講習会を行うと良いのでは。
読書バリアフリー	○　ひなデジは、音声読み上げがあるリフロー型ばかりでないので、全てが読み上げ機能になっていない。 ○　スクリーンリーダーを活用し、視覚障がいのある方が自ら操作できるのがアクセシブルな電子書籍である。しかし、現状ひなデジは再生ボタンを押すことが難しい。テキスト表示形式（文字列）の表示にできないとアクセシブルな電子書籍とはいえない。 ○　操作性は障がい当事者がユーザーテストをしてほしい。企業側がテストを行ったものが、当事者にとって使用できるものとは限らない。ログインや返却機能など、まだまだ改善の余地がある。